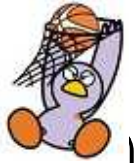


平成20年度全国高等学校総合体育大会バスケットボール大会
第61回全国高等学校バスケットボール選手権大会

彩夏到来 08 埼玉総体



平成20年7月29日(火) 一回戦

Fコート 第4試合 東京成徳大学深谷高校

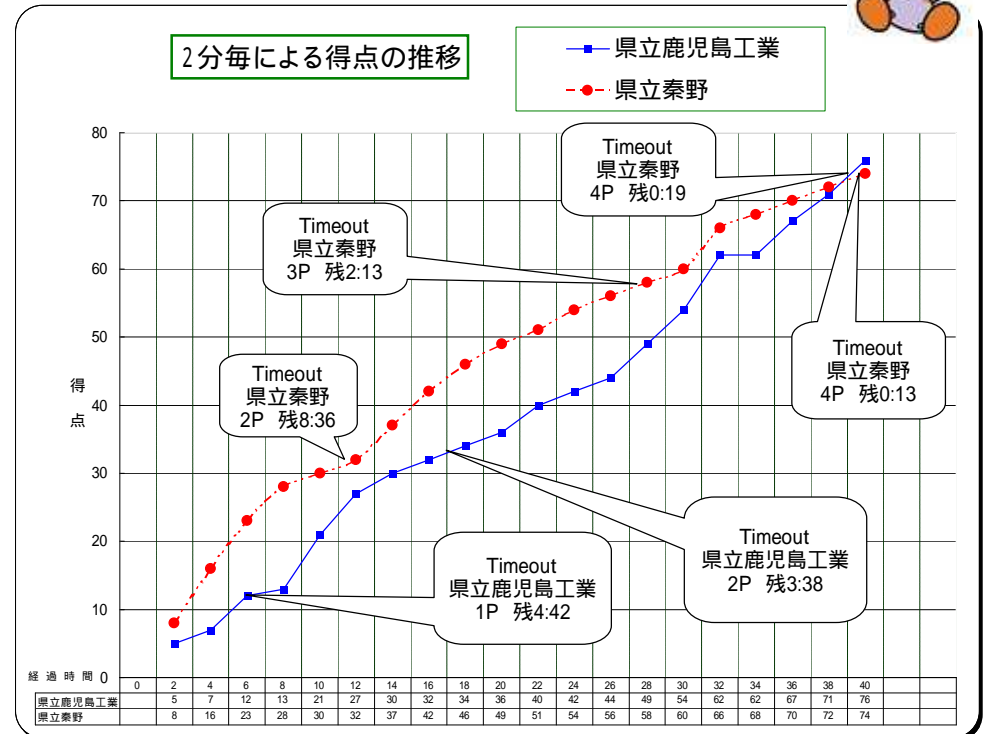
チームA	76	21 - 30 15 - 19 18 - 11 22 - 14	74	チームB
県立鹿児島工業 鹿児島				県立秦野 神奈川

県立鹿児島工業

番号	氏名	出場	得点	3P		2P		FT		反則	リバウンド		TO	ST	AS	BS	出場時間 単位:分	
				成功	試行	成功	試行	成功	試行		OF	DF						
4	西大樹		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	DNP
5	小城 勇人	✓	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	10
6	有馬 啓太	✗	19	0	7	9	17	1	2	2	1	4	6	4	7	0	0	38
7	坂元 優斗		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	DNP
8	久保田 竜馬	✗	13	4	12	0	3	1	2	3	3	3	0	0	2	0	0	38
9	圓林 順平		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	DNP
10	山下 広大	✓	9	2	4	1	3	1	2	1	1	3	1	1	1	0	0	29
11	中馬 健志		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	DNP
12	中深迫 諒太	✗	17	0	0	6	7	5	6	0	5	6	4	1	0	0	0	39
13	寺師 孝治	✗	15	0	0	5	8	5	10	4	8	6	3	0	0	0	0	30
14	鮫島 和人	✓	3	1	5	0	0	0	0	2	0	1	2	0	0	0	0	11
15	日高 宏紀	✗	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	5
コーチ	宮迫 崇文									0	2	12						
出場: xは先発、/は出場			76	7	29	21	38	13	22	12	20	37	17	6	10	0	0	200
確率			24.1%	55.3%	59.1%	計		57										

県立秦野

番号	氏名	出場	得点	3P		2P		FT		反則	リバウンド		TO	ST	AS	BS	出場時間 単位:分	
				成功	試行	成功	試行	成功	試行		OF	DF						
4	竹嶋 拓人	✗	19	1	9	7	13	2	4	3	4	3	1	2	1	0	0	37
5	五十嵐 匠	✗	21	3	7	6	10	0	0	4	6	3	2	3	2	1	0	33
6	相京 佑介	✗	8	0	1	3	12	2	2	3	0	3	2	0	2	1	0	40
7	小野 拓哉	✗	16	2	5	5	12	0	0	5	1	5	4	3	8	0	0	34
8	藤枝 一馬	✓	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	2
9	村上 仁志	✓	0	0	0	0	0	0	0	2	0	1	0	0	0	0	0	7
10	渡邊 涼		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	DNP
11	阿津坂 滉宣		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	DNP
12	波田野 景平		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	DNP
13	横山 勇気	✗	10	2	9	2	4	0	0	4	1	3	0	0	1	1	0	40
14	安部 倭		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	DNP
15	井上 智喜	✓	0	0	0	0	1	0	0	0	2	0	1	0	0	0	0	7
コーチ	山本 博之									0	2	10						
出場: xは先発、/は出場			74	8	33	23	52	4	6	21	16	28	11	8	14	3	0	200
確率			24.2%	44.2%	66.7%	計		44										



戦評
 第1P 両チームともマンツーマンでスタート。秦野が4本の3Pをからめ確実に得点を重ねていくのに対し鹿児島工業はインサイドにボールを入れて対抗。秦野はセンターを抑えようとしてファールがかさむが速攻からの得点で30対21秦野リードで終了。
 第2P 立ち上がり鹿児島工業のセンターがゴール下を頑張り、途中2点差まで詰め寄る。秦野が2-3ゾーンに変え、インサイドをかため速い流れからドライブインでバスケットカウントをもらい再びリードを広げ49対36で終了。
 第3P お互い激しく攻めるが、決め手に欠き一進一退、残り3分鹿児島工業#14鮫島の3Pで9点差に詰め寄り、さらに1-1-3のゾーンに変え秦野のシュートミス誘い#10山下のレイアップシュートで60対54とする。
 第4P 鹿児島工業はディフェンスを切り替えながらじわじわと追い上げ秦野#4竹嶋が負傷退場している間に#6有馬#8久保田のシュートが決まり、残り2分#6有馬のドライブインで逆転に成功。秦野もタイムアウトで指示を出す、#6有馬にフリースローを決められ2点差となり、最後秦野#4竹嶋が3Pを打つが、ゴールならず、76対74で鹿児島工業は接戦を制しうれしいインターハイ初勝利を手に入れることが出来た。

主審	松岡 隆博	副審	羽富 宏紀	戦評	鈴木 朋弘 (埼玉県高体連)
----	-------	----	-------	----	----------------

3P: スリーポイントシュート, 2P: 2ポイントシュート, FT: フリースロー, OF: オフェンス, DF: ディフェンス, TO: ターンオーバー, ST: スティール, AS: アシスト, BS: ブロックショット